



(写真は北越谷駅舎の工事)
いままでにない編成難

昭和36年産米穀の売渡実績

地区名	予約目標	予約数量	減 更 額 数	変 量	減額 指 示 数量	売渡数量	備 考
越ヶ谷	557	557	53	504	506	超過	2
大沢	2,446	2,405	0	2,405	2,406	1	
大袋島	10,544	10,587	165	10,422	10,433	11	
荻出羽	13,637	13,658	401	13,257	13,258	1	
蒲生	16,436	16,436	395	16,041	16,078	37	
大相模	6,626	6,460	535	5,925	6,155	230	
増林	12,278	12,278	1,175	11,103	11,116	13	
新方	8,920	883,2	417	9,900	10,023	123	0
桜井	7,386	7,273	208	8,415	8,415	0	
川柳	5,352	5,470	375	5,095	5,095	41	0
計	94,235	93,945	3,813	90,132	90,591	459	

37.1.31日調

上水道張工事も三ヵ年継続事業

市計画道路事業の越谷駅前線の大

中な事業、それに北越谷の区画整

理事業等々主な事業をひかえ、そ

その他の「もしも」やならない事

件は「37年度の当初予算には義務

として議決されている西中学校建

設成にも苦慮いたしております。

が市の財政にも限度あることで、

あり、それだけ予算編成には義

務をひかえておられる羽衣島両中學を統合して両中

算成にも苦慮いたしております。

この度は予算編成には相

当の苦心を要するところで、容易でな

いわけです。例えば教育面における

出羽衣島両中學を統合して両中

算成にも苦慮いたしております。

この度は予算編成には相

当の苦心を要するところで、容易でな

いわけです。例えは教育面における

出羽衣島両中學を統合して両中

算成にも苦慮いたおります。

この度は予算編成には相

当の苦心を要するところで、容易でな

工場進出が農村に

どう影響する

勤め人がふえる

土地代金は、まず家屋の増改築

工場の進出が農村にどう影響するか、農業労力や就労状況はどう変わってきたか、などの問題についてこのほど埼玉県農政調査が埼玉大学教授泰玄龍先生に委託して調査しました。

この調査は、越谷市蒲生地区と鶴谷市三〇地区を調査したものですが、越谷市蒲生地区の場合はどういう結果が出たかみてみましょう。

○工場進出

○蒲生地区の場合

平均耕作反別は一町三畝であり、その勤め先は東京が六一%、

昭和三

経営の中心は水稻で田一町五反以

十四年

上耕作する農家がよやく一反以

から本

上の畑をもつ程度、生産力は非常

格的に工場が進出し、現在まで一

に低く反収三石を出る生産力は少

いです。

一工場当たりの従業員は

六十人と予定され、業務内容は下

請的な中小企業が多く、工場の配

置は計画的でなく農地の中に分散

していることです。

○兼業農家は六〇%

越谷市全域の農家のうち専業農家

は四〇%、兼業農家率は埼玉県の三七%

より高く、また兼業農家埼玉三五

%と比較して高率を示しております。これから農業経営の発展と

いっ立場から越谷市の現況を判断

するとして、第一に水田經營による米

作が主体になっているので根本的

に検討を要する」と、第二に農業

労働力の老年化、女子労働化が問

題あるなどを指摘しております。

○工場進出

六割は東京で働く

農地は専門的で

な工場で

多く、老令化、女子化しておま

ります。

○工場化に伴なう問題点

蒲生地区の場合は農業従事者の主

体が老令化、女子化しておま

ります。

○工場化に伴なう問題点

</